

第 1 回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 文化芸術部会会議録

会議名	第 1 回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 文化芸術部会
事務局	地域のちから推進部地域文化課
開催年月日	令和 7 年 7 月 15 日（火）
開催時間	13 時 59 分～15 時 58 分
開催場所	ギャラクシティ レクリエーションホール 2
出席者 （敬称略、順不同）	西岡龍彦（東京藝術大学 名誉教授）／小泉ひろし（区議会議員）／荻野美恵子（東京都盲人福祉協会 女性部会長）／葛西啓之（株式会社いのちとぶんか社 代表取締役社長）／傍嶋賢（SOBAJIMA STUDIO 代表）／田島のぞみ（区民（公募）） 大久保中央図書館長・3 分野連携担当課長／江連地域文化課長・生涯学習支援課長／齋藤生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当／早川地域文化課調整係長／勝倉地域文化課調整係主任
欠席者	なし
会議次第	別紙のとおり
資料	資料 1 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿 資料 2 第 2 回全体会における意見及び今後の方針 資料 3 足立区文化芸術推進計画 活動指標管理表（令和 6 年度実施分） 資料 4 足立区文化芸術推進計画 施策評価シート（令和 6 年度実施分） 資料 5-1 足立区文化・読書・スポーツ推進計画 評価体系 資料 5-2 足立区文化・読書・スポーツ推進計画（2 次・3 次評価）評価基準 資料 6-1 足立区文化芸術推進計画 評価実施状況（令和 3 年度） 資料 6-2 足立区文化芸術推進計画 評価実施状況（令和 4 年度） 資料 6-3 足立区文化芸術推進計画 評価実施状況（令和 5 年度） 資料 7-1 アンケート質問項目検討表（事務局案・16 歳以上用） 資料 7-2 アンケート質問項目検討表（事務局案・小 5・中 1 用） （参考） 参考 1-1 令和 3 年度 アンケート調査票（16 歳以上用） 参考 1-2 令和 3 年度 アンケート調査票（小 5・中 1 用）

その他	傍聴者 なし
-----	--------

(審議経過)

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

定刻少し前ですけれども、おそろいですので、始めさせていただいてよろしいでしょうか。

ただいまから、第1回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会文化芸術部会を開催させていただきます。本日はお忙しい中、また蒸し暑い中お越しいただきまして誠にありがとうございます。本部会の事務局を務めさせていただきます地域の力推進部地域文化課長の江連と申します。よろしくお願いいたします。

なお、事務局として、同じく地域のちから推進部の中央図書館長／3分野連携担当課長を兼務しております大久保が同席しております。よろしくお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

大久保でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

では、会議に先立ちまして、3点ご案内させていただきます。

まず本部会は足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例第6条第2項に基づきまして、過半数の委員の出席により成立するものでございます。本日6名全員が出席いただいておりますので、委員会が成立していることをまず報告させていただきます。

次に、本部会は条例で公開を原則としておりますので、会議録はホームページ等で公開させていただきます。

次第に入りましたら、会議録を正確に作成するため録音させていただきますので、ご発言の際には最初に委員名をおっしゃっていただいてから、ご発言をお願いしたいと思います。

また、記録のため写真撮影を幾つかさせていただく場合がございますので、併せてご了承ください。

最後に、配付資料でございますが、次第の裏面に一覧がございますとおりでございます。資料1～参考資料1まで、ルビをつけてありますので、随時説明の際に見ていただきながら会議に入っていただけたらと思っております。また、閲覧用に計画書の冊子もお渡ししておりますので、必要に応じてご参照ください。

もし寒いとかありましたらおっしゃっていただければ調整しますので、よろしくお願いいたします。では、次第に沿って進行させていただきます。

1 新委員の紹介・委嘱状交付

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

まず項目1番、新たな委員の紹介・委嘱状の交付から始めさせていただきます。

資料1の委員名簿をご覧ください。

今回、太枠でお示ししております区議会議員選出の委員の皆様につきまして変更がございました。文化芸術部会につきましては、新しく小泉ひろし様に本推進委員会の委員にご就任いただき、文化芸術分野における議論をより深めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、これより委嘱状の交付を行います。

委嘱状につきましては、3分野連携担当の大久保から交付させていただきたいと思っております。

お名前をお呼びしますので、恐れ入りますが、よろしくお願いいたします。

小泉ひろし様でございます。よろしくお願いします。

(委嘱状の手交)

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

本年はこの委員構成で部会を運営してまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、ここから西岡部会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 第2回全体会における意見及び今後の方針

■西岡部会長

進行を代わらせていただきます。改めまして、文化芸術部会の部会長を務めさせていただく西岡です。本日暑い中ご参集いただきありがとうございます。どうかよろしくお願いします。

新しい委員構成になってから今回初めての部会です。ご意見やご質問などを積極的にご発言お願いいたします。

それから、本日は事務局からの説明を基に3分野計画の評価、そしてアンケート質問項目についての意見交換を中心に実施いたします。本日の意見交換の内容を踏まえて、次回の部会で3分野計画の評価及びアンケート項目、質問項目についての文化芸術部会としての案を取りまとめていきたいと考えております。

それでは早速、次第に沿って事務局から説明をお願いしたいと思います。

まず、次第の項番2「第2回全体会における意見及び今後の方針」について、事務局から説明をお願いします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、事務局の大久保からご説明をさせていただきます。

第2回全体会における意見及び今後の方針ということで、お手元、資料2をご用意ください。こちらA4縦のもので、ホチキス留めになっているものとなります。

こちらが前回5月26日の第2回全体会で皆様からいただいた主な意見と、そちらに対する現時点での区の方針をまとめさせていただいております。本日はこちらの中から幾つか抜粋してご説明をさせていただきます。

まず、資料1ページ、項番1の「現在の3分野計画の評価について」というところで、3つご説明させていただきます。

まずNo.1のところですが、スポーツ部会の中村委員から、「過去にどういった助言や評価がなされて、それに対してどういった対応がされたか」というものを資料として用意してほしい」というご要望がございましたので、本日、そちらの資料をご用意させていただいております。

お手元の資料6番のインデックスが貼ってあるA3のものになるのですが、こちらが令和3年度から令和5年度までに皆様から頂いた助言ですとか評価の内容と、それに対して区がどのような対応をしてきたかというものを左と右の対になる表でまとめさせていただいているものになります。網かけで色分けしておりますけれども、左側で例えば黄色になっているところは、右側で黄色になっているところと対になっていまして、左側が皆様から頂いたご意見、右側が区の対応という形でまとめさせていただいております。本日、一つ一つこちらをご説明する時間がないのですが、今後の皆様の評価作業の中で参考資料としてお役立ていただけますと幸いです。

続きまして、資料2のほうに戻らせていただきます。No.2のところ、こちらは田島委員から

頂いたご意見になっておりますけれども、「ご自身の所属される部会だけではなくて、他の部会についてもご意見を出したい」というご要望がございましたので、こちらは随時承れればというふうに思います。

続きまして、No.4 になります。こちらでも田島委員からのご意見になりますけれども、「評価調書以外にも、情報提供を」ということで、本日も会議の参考資料として、幾つかイベントですとか事業のチラシをご用意させていただいております。クリアファイルに入っているものになりますけれども、こちらでも本日のご説明の中で全て触れることはなかなか難しいのですが、随時ご参照いただきまして、評価の際にお役立ていただければと思います。文化分野は様々な事業を行ってまして、ビジュアルにもこだわったチラシをいろいろと作っておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

それでは再度、資料 2 のほうに戻らせていただきます。1 ページおめくりいただきまして、2 ページ目、こちらはアンケートに関するご意見を 2 つご紹介させていただきます。

まず No.1 のところでございますけれども、こちらは今回、秋に実施する 3 分野のアンケートが、従来 8,000 件で行っていたものを 3,000 件に規模を絞って実施するということで、「そちらで分析に問題はないのか」というご意見を頂きましたが、こちらは岩永会長から補足を頂きまして、「分析方法の工夫によっては技術的にクリアができる」というご意見を頂きましたので、今年度のアンケートにつきましては 3,000 件で実施する方向で進めさせていただきたいというふうに思います。

最後になります。3 ページ目をご覧ください。上段の No.5 のところになりますけれども、アンケートの実施に当たって、外国籍の方への配慮ですとか、障がい者の方への配慮ということでご意見を頂きました。こちらにつきましても岩永会長から補足を頂きまして、例えば外国籍の方、障がい者の方ごとに調査票を用意するというよりは、それぞれ個別の方に深く直接お話を聞くヒアリングですとかインタビュー、こういった方法もあるので、そういった方法もよいのではないかとということでご意見を頂きました。こちらについては今後部会ですとか全体会の中で皆様と議論の上、検討させていただければというふうに思っております。

資料 2 についてのご説明は私からは以上になります。

3 3 分野計画の評価について

■西岡部会長

ありがとうございました。

続いて、次第の項番 3 「3 分野計画の評価について」、事務局から説明をお願いします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

続きまして、私のほうと地域文化課長の江連のほうで、それぞれご説明をさせていただきます。

まず私のほうからは、評価制度の概要というか、評価シートの仕組みについて簡単にご説明をさせていただきます。その後、江連のほうから、各資料について、具体的な施策ごとにどういった事業を行ってきたかというところで、少々お時間を頂いてご説明をさせていただきたいというふうに思います。

お手元、資料の 4 番、A3 で折り込んであるものになりますけれども、こちらをお手元にご用意いただいてよろしいでしょうか。

資料の 4 になります。文化芸術計画施策評価シートというものになりまして、こちらは 9 枚をご用意しておりますけれども、私のほうから 1 枚目を使って、このシートの見方をご説明させていただ

ければと思います。

文化芸術計画の評価については、基本的にこのシートを使って皆様に行っていただく形になります。最終的に皆様にしていただくことが、このシートの右半分の真ん中のところに「推進委員会による評価」という 5 番の項目がございます。こちらを委員の皆様のご意見を踏まえて作成していただくというのが最終的なゴールになります。こちらは文章を入れていただくだけではなくて、5 番の右上のところに「全体評価」、「達成度」、「方向性」、「反映状況」ということで小さい四角がございますが、こちらには 5 段階の評価を入れていただく形になります。ここの文章を埋めていただくのと評価の 5 段階の点数を入れていただくというのが委員の皆様をお願いしたい内容になります。

そちらに当たって、区で既に自己評価ですとか、5 段階評価をした内容がございますので、本日はそちらをご説明していただいて、次回に向けて皆様の評価をまとめさせていただくという形で進めさせていただければと思います。

こちらのシートの全体的な見方をもう少し補足させていただきますと、左上をご覧くださいなのですが、1-1 という数字が入っていますが、こちらが施策の番号というものになりまして、文化計画が 1-1 から 4-2 まで 9 つ数字がございます。そちらの一つ一つに対してこのシートがありますので、皆様にはこの 9 枚のシートを作っていただくということで、ちょっと分量が多いのですが、こちらをお願いいたします。

この評価をしていただく上で一番基本になるのが、次の項目の 2 番のところに「成果指標」という欄がありまして、そこに様々な指標があつて、その目標値ですとか実績値が書いてあります。こちらの目標の達成度に基づいて、皆様には区の文化計画がどれぐらいに到達しているかというところで評価をしていただくのが基本になります。

例えば 1-1 の成果指標で、①のところは「足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合」というものがありますが、こちらが令和 8 年度の目標値が 80%ということになっているのですが、その目標に向けてどこまで到達しているかというところで皆様には達成度を見ていただく形になります。こちらは数値だけではなくて、どんな事業をやったかというところの説明も入れさせていただいておりまして、それがその下の段の 3 番の「担当部における評価」という左下のところに、どういった事業をやったかということを具体的に書かせていただいております。後ほどこちらを江連のほうからご説明をさせていただきます。

もう 1 か所ご覧いただきたいところがございます。こちらの右上のところに「4 庁内検討委員会による評価（2 次評価）」という欄があります。こちらは区役所の内部で実際にこの施策に対して 5 段階の評価をつけた部分になりまして、具体的にこの 1-1 でいいますと、全体評価が 3、達成度が 3、方向性が 3 ということになっていますが、これが 1-1 の令和 6 年度の事業に対する評価という形になります。必ずしもこちらに縛られる必要はないのですが、一定程度こちらの区の自己評価も参考にさせていただきながら委員の皆様の評価もしていただけると、一つの参考になるかなと思っております。

あと 1 点だけ私のほうからご説明させていただきます。ほかの部会でもご質問頂いたのでありますが、実際に 5 段階をつけるに当たっての何か基準があるのかというご質問をよく頂くのですが、資料 5-2、A4 横のものをご覧ください。

こちらが、現在の達成状況、今後の方向性、反映結果ということで、それぞれ 3 つの項目で、どこまで到達したら何点をつけていただくかという早見表になっています。ほかの部会でご質問頂いたのが、例えば具体的に 80%に到達したら 4 なのか、60%だと 3 なのかというようなご質問も頂い

たのですが、数字で割合が決まっていなくて、こういった形で言葉で定義させていただいておりますので、5段階の評価のつけ方は最終的には委員の皆様の主観という形になります。

全体評価につきましては、こちらも下に早見表があるのですが上、上の3つの項目、現在の達成状況から反映結果までの合計点によって全体評価が決まる仕組みになっていますので、全体評価は主観でつけていただくということではなくて、現在の達成状況、今後の方向性、反映結果、この3つをつけていただければ全体評価は決まるという仕組みになっております。

長くなりまして申し訳ありません。評価の仕組みについて、私からのご説明は以上になります。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

では、引き続きまして江連のほうから、資料4の施策評価シートに基づきましてご説明をさせていただきます。

文化芸術部会は9個の施策、私は25分間ぐらい預かっておりますので、1施策2〜3分でご説明しなければいけないので、少し重点ポイントを絞りながら説明をさせていただいて、細かい議論の中身の質問についてはお答えしていこうかなと思っております。

■西岡部会長

1と2を全部お話しいただくので、項目ごとにメモを取っていただいたほうがいいですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。よろしくお願いします。

■西岡部会長

項目ごとではないので、最後まで説明いただくので、どうぞメモを取っていただくようにお願いします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

会長、逆にどちらかで区切ったりしたほうがよろしいでしょうか。1-1から4-2まであるのですが、大きく言うと柱の1、2、3、4と4つになりまして、例えば施策の柱の1つずつで切っていくですとか、そういったご説明もできますけれども、いかがでしょうか。

■西岡部会長

時間の調整がちょっと難しいかもしれないけれども、見ておいていただければ、項目ごとにその場で感じたこと言っていただくほうが、今日はそのほうがいいかもしれないですね。心配なのは時間だけです。量が多いので。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

承知しました。時間のほうは事務局で管理させていただきますので。

■西岡部会長

お願いします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

柱ごとに4つに分けて説明させていただきます。

■葛西委員

今日は、そのお話を今からお伺いして、5の（1）と（2）に意見を述べる想定で聞いておけば。

■西岡部会長

そうですね。想定としては、そういうことでございます。実際に書くのはまだ先ですけども。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

個別の事業にご説明に対するご質問でもご意見でも結構ですので、今日はざっくばらんに委員の

皆様が感じたことをご意見頂ければというふうに思います。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

資料3が事業の束ごとに施策が1つずつありますので、全部貼ってはあります。ただ、内容がどうかというところですね。項目は出しているけれども、実際に成果がどうなっているのかということに関しても質問は出てくるとは思うのですが、あまり掘り下げると終わらなくなってしまうので、この辺は後で質問がございましたらお答えさせていただきますので、また後でご覧いただけたらと思っています。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

1点だけよろしいでしょうか、皆様。ご説明を聞いていただくときに、こちらの計画書の4ページと5ページをお開きいただきながら聞いていただきますと全体像が分かるかと思います。こちらは計画の全体像になっていまして、施策の柱が1〜4まであって、その下にその施策というものが1-1〜4-2までぶら下がっているというところになりますので、この1、2、3、4の単位で区切って今日は順番に進めさせていただければと思います。4ページ、5ページになります。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

左から3つ目、施策の柱4つ。それにそれぞれ施策がついているような項目出しになっております。

では、柱1からお話しさせていただきます。

まず1は「生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する」ということで、気づきのきっかけづくりをまずしていきましようという頭出しのところでございます。

方向性としましては、実際に触れ感ずることから始まるということに関して、誰もがいつでも文化芸術を楽しめる機会を創出するというのが方向性の目的となっております。

1つ、成果指標のところでお話しさせていただきますと、令和3年にこの計画をつくるときに、同じように3,000名のアンケートを行っております。その結果がパーセンテージで載っているのですが、令和4年、令和5年というのは、このアンケートを3,000名には行っておりません。区政モニターは毎年200名で行っているのですけれども、この項目の中のパーセンテージが令和4年、令和5年は載っておりますので、令和3年から4年のところで結構大きく数字が分かれていますのですけれども、そもそも母体が違うというところで、その辺はご承知おきいただけたらと思っております。

施策1-1、気づきの部分の3の「担当部における評価」をご覧ください。

まず施策の指標につきましては、世論調査等で出た数字については、③の関心を持っている区民の割合については、令和4年から令和5年については若干下回っております。また、指標④につきましては、実際に鑑賞した区民の割合としましては、こちらのほうは若干上がっているという数字になっております。

主な施策に関しては、こちらについてはシアター1010で文楽の公演を行っています。令和5年からは実際に国立劇場の太夫さんに来てもらって「初めての文楽講座」を行いました。文楽になりますと非常に入りづらいというところがありますので、より分かりやすく、どういう話がありますよというところの講義を受けた上で公演を聴いていただける方も非常に多かったというところが特徴の1つとなっております。

また、その他実績等の「ア」にありますとおり、毎年、区役所で「アトリウムコンサート」をやっております。これは合唱をやったり、オーケストラを行っているもので、コロナ禍でしばらく止

まっておりますが、令和 5 年から 4 年ぶりのコンサートを再開したということで、900 名弱の方がご来館いただけたという形になっております。

また、最近はやりのストリートピアノも、今区内に 4 か所、自由に弾けるピアノがございます。これは公共の施設だけではなくて、スーパーの一角もお借りしながら行っているもので、またギャラクシティと区の共催の中で北千住の改札の前であるとか、より皆さんがたくさん通る場所でもイベントをやりながら行っているものでございます。アウトリーチについては 2 回開催しまして延べ 104 名、1 回当たり 50 名ぐらいが演奏いただいたということで、今年もやったのですけれども、50 名を超えると、ほぼほぼ途切れずに皆さんが演奏していただいているという状況になります。

評価委員の意見につきましても、やはり文楽の鑑賞というところは、通常、国立劇場でやっているもので、今改装中ということでシアター1010 でもやり始めたというところなのですから、非常に区内外からお客さんがいらっしゃるのですけれども、通常の演劇よりも一つレベルが高いものになりますので、非常に効果が大きいかなと思っております。というところが柱 1-1 でございます。

次に柱 1-2、次のページをご覧ください。こちらは子どもの成長に応じた文化芸術の提供ということで、こちらの特徴としては、令和 4 年度から、小学校 5 年生に対して劇団四季の鑑賞を全生徒に行っているというところが、ここ数年の一番大きな事業の展開かなと思っております。

指標②を見ていただきますと、こちらは子どもに対する文化芸術の評価の区民の割合ですけれども、令和 4 年から令和 5 年に 40%程度から 65%と非常に大きな数字の伸びがございます。やはり小学 5 年生全員というインパクトが非常に大きいのかと思っております。また、令和 5 年度につきましては、朝日信用金庫様から文化芸術の寄附ということで「地元応援団」の寄附を頂きまして「はらぺこあおむしショー」ということで、より低学年、乳幼児の方へのものも急遽やったりとかして臨機応変に対応しているところでございます。施策 1-2 は以上になります。

では、ここまでで一回、ご質問、ご意見等がありましたらお願いできますでしょうか。

■西岡部会長

いかがでしょうか。

■傍聴委員

傍聴です。お願いします。

劇団四季のこれは、全区立小学校 5 年生って何名ぐらいいらっしゃるのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

1 学年、大体 5,000 人ぐらいですね。

■傍聴委員

5,000 人。ありがとうございます。

■西岡部会長

これは学年が決まっているのですよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね、5 年生ということで。

■西岡部会長

5 年生だけ。だけれども、全 5 年生ですよ、区の。すごい数ですよ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

区の全ての 5 年生。

■傍嶋委員

それを合わせると 5,000 ぐらいということですよ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。5 年生の児童、区内で 5,000 人ということですね。

■西岡部会長

あと、資料 3 のほうなのですけれども、郷土博物館、今後リニューアルになるので、ここの分も変わると思うのですけれども。5 ページのところのですけれども、ホームページの電子展覧のアクセス数というところが急激に下がってきているのですね。原因が何だったんでしたっけ、これ。資料 3 の 5-5 というところなのですけれども。これは普通に興味がだんだんなくなってくるみたいな、そういうことなのですかね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

令和 4 年がちょうどコロナで、全くできなかったときに、一回展示物を大きく出したところがありますので。出ているものが新しいもの、新しいものを作っているというところがあるので。

■西岡部会長

コロナ期間、特に外からなかなか行けないので自宅で見られるようにということで、力を入れてやっていたわけですよ。やっぱりコロナが終わると、ちょっと興味が冷めてしまうということですかね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

うちはリニューアル中でしたけれども、ほかの美術館なんかは再開し始めていますので、そこらは実際に見る方も多くなっている。令和 4 年は、ほぼほぼ皆さんどこも閉じていたというところで、電子のところにより注目が集まったというところがあります。

■西岡部会長

分かりました。令和 6 年というのは、ちょっとズレているのですけれども、ここが一番ピークなのですね。令和 6 年で、コロナの直後ぐらいですかね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね、令和 6 年の直後ですね。

■西岡部会長

分かりました。ありがとうございます。

これは今度リニューアルされるので、こういうデジタル系の部分も、いろいろこれから変わってくるのでしょね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。ちょうど 4 月 26 日にリニューアルオープンして、館のほうも大盛況なのですけれども、今、足立区はどんどん文化財が発掘されている段階で、いろいろなところからお声がけいただいているので、新しい登録が増えてきますので、そういったものは随時リニューアルしていこうと思っています。

■西岡部会長

分かりました。ありがとうございます。

小泉委員から。

■小泉委員

劇団四季の 5 年生の子どもたちが約 5,000 人ということなのですが、これは区で貸切りで鑑賞し

てもらっていると思うのですけれども、何日間に分けてやっているのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

去年までは4日間に分けて、1回1,300人ぐらいですね。

■小泉委員

小学校5年生なのですけれども、例えば「美女と野獣」という恋愛ものというか、芸術性は高いと思うのですけれども、内容としては恋愛ものなのですが、小5の子どもさん、または先生からの評判というのはいかがでしょうか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

ディズニーマovieの映画ですので、やはり皆さんなじみがあるというところで非常に好評で、95～96%の皆さん、大半が大満足という結果で終えているところでございます。また、帰った後にご家族とこの話をしたという割合も非常に高いので、今度また家族で劇団四季とか芸術鑑賞していただけるようなひもづきがどんどん進んでいけるといいかなと思っています。

■小泉委員

この事業は3回目でしたっけ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。令和4年からですので、3回、今年で4年目です。

■小泉委員

演目はみんな「美女と野獣」だったのですか。

■事務局（地域文化課調整係長）

最初は「ライオンキング」が有明であったのですけれども、有明のほうですと一駅歩かなければいけないのですね。バスの駐車場から一駅歩くのには危険だということもありまして、駐車場問題があったものですから、舞浜だけに去年からさせていただいています。

■小泉委員

あとは簡単な質問なのですけれども、アトリウムコンサートは私も何回か見たのですけれども、あれは時間的には昼の時間、本当はもっと時間があれば素晴らしいと思うのですけれども、時間はどのぐらいで実施しているのですか。

■事務局（地域文化課調整係長）

30分弱です。

■小泉委員

もったいないぐらいな。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうですね、皆さんご好評で。ご高齢の方にすごくご興味が。

■小泉委員

ありがとうございます。

■葛西委員

葛西です。劇団四季だったり、特に演目の「美女と野獣」というところだったり、逆にシアター1010のほうで書いてある「アサルトトリリィ」、「青春のアイドルヒットステージ」などって、これは多分ホールさんの主催の公演ということだと思うのですけれども、「美女と野獣」ですけれども、この演目をこの年度で区民の方に伝えたい、届けたいという決定プロセスみたいなのというのは、どういうふうになっていらっしゃるのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

「美女と野獣」に関しては、正直なところ立地というか、どこだったら台数のバスが置ける劇場があつてというところから、「美女と野獣」のほうは必然的にやっている演目ということで進んでおります。

シアター1010のほうにつきましては、シアターのほうと年少向け、中年向け、ご高齢向けと3つのターゲット層を絞って、何をするかということと相談しながら演目は決めているそうです。費用的なところも、今年はどこに力をかけるかみたいなところも含めて相談しながらやっているところでございます。

■事務局（地域文化課調整係長）

「美女と野獣」につきましては、コロナでお子さんたちの鑑賞、何か見るという機会がかなり失われてしまったのですね。幼少期にこういった本物の芸術性に触れることで自己肯定力が高まるという研究もあったものですから、それと区制90周年というところで始めたのがきっかけです。

■田島委員

田島です。このシアター1010の例えば「アサルトリリィ」だったり、「音楽の絵本」という演目を決めるというのは誰が決めているのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

これはシアターの運営側と区のほうで話をしながら、今こういうところの項目ができそうだよというものを……

■田島委員

提案されて、区の方が選ぶということですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

区と一緒に相談しながらということです。

■田島委員

一緒に。

■西岡部会長

指定管理者制度で、向こうからの提案があつて、区のほうの意見も反映しているということですね。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうですね。ギャラクシティとかも同じです。

■田島委員

そうなんですね。「こういうのもあるけれども」みたいな感じで提案があるということですね。区からも補助が出ているのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

区からは委託料、指定管理の委託料の中でやるということです。

■田島委員

この公演は区民も一部実費負担ですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

この「文化の力体験会」というので、席を区がまるっと買って無料招待という形で。

■田島委員

この「アサルトリリィ」とかもですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。

■田島委員

そうなんですね。それを応募するみたい。「はらぺこあおむし」も、そういうイメージですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

「はらぺこあおむし」は寄附があったのですね。朝日信用金庫さんから寄附があつて、年少の子どもさん向けに何かできないかということで、庁内で話が決まりまして、急遽年度内にお願いするということで開催したものになります。

■田島委員

何で「はらぺこあおむし」になったのかなと思ったのですけれども。

■事務局（地域文化課調整係長）

「はらぺこあおむし」ってお子さんがみんな大好きなので。なので、赤ちゃんでも親しみやすいというところで選んだのだと思います。

■田島委員

ありがとうございます。

■事務局（地域文化課調整係長）

すごく好評でした。赤ちゃんが「わーっ」と騒いでいても、全然。普通の演目って、なかなか騒いじゃうと気になってしまうところなのですから、小さい子たちがたくさんいらっしやったのすごく盛り上がっていました。絵本でしか見たことがないものが立体的にあるので、すごく喜んでいらっしやいました。

■田島委員

本当に赤ちゃんから芸術に親しんでもらいたいという思いでやられているわけですね。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうですね。

■西岡部会長

こういう寄附というのは、たまにあるのですか。

■事務局（地域文化課調整係長）

なかなかないですけれども。たまに、亡くなった方から遺産を頂いたりとか、そういう方もいらっしやったりとか。

■田島委員

またまた質問なのですから、田島です。小学校5年生を対象に、こういう劇団四季に行くみたいなことが足立区は多いのですが、それ以外は足立区の子どもはこういう経験はないのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

区から招待してというのは……。あとは学校単位でマジックショーのイベントでやったりとか。

■田島委員

来たりとかしますよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

学校で手を挙げて、抽選で選ばれるみたいなのはありますね。

■田島委員

去年、だいすけお兄さんが来ました。地元の小学校に。よかったみたいです。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

それは抽せん倍率高そうですね。

■田島委員

頑張っていたいたので。一律でこういう体験ができるのが「美女と野獣」ということですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうです。

柱 1 はここまでにしていただいて、次、柱 2 の説明をさせていただきたいと思います。

柱 2 は、「区民の活発な文化芸術活動を促進する」という柱の中で、3 点ございますので、2-1 から 2-3 までご説明いたします。

2-1 につきましては「活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす」ということで、生涯学習センターを含めて区内に 15 か所ございます。こちらで趣味であったり教養的な部分、また歴史の勉強であったり、幅広く講座を行っております。令和 6 年度は 3,800 事業というか、講座を行ったものでございます。コロナ禍の令和 3 年は 1,800 ぐらいまで大分落ち込んでしまったのですが、コロナ禍以降落ち着きを取り戻しました。コロナ禍前の平成 30 年が 2,600 講座ぐらいですので、それを 1,000 件以上上回るぐらいの伸びで講座を提供させていただいております。

また、3 分野連携で行っております「ちょいカル」、今は「ぶちカル」というのですが、スポーツと文化とカルチャー、読書をお互いに連携するような取組もセンターのほうで行っているものでございます。

短期的な取組としましては、「千住だじゃれ音楽祭」としまして、千住の 1010 人というアーティストさんというのか、芸術家さんを中心に、シティプロモーション課のほうで音頭を取って、応募しながら活動する音楽とかの体験も行っているものでございます。ちょうど今年が千住宿開宿 400 年ということで、その事業の一環として行っているものでございます。

続きまして、2-2 でございます。個人や団体の活動の継続、団体支援も含めた活動でございます。こちらについての指標は、指標③を見ていただきますと、活動を行っている区民の割合については非常に高まっているところでございます。

要因分析としましては、音楽 3 団体といいまして、足立区にシティオーケストラ、足立吹奏楽団と足立区民合唱団、この 3 つの音楽団体を支援しておりまして、講師料であったり、会場費なんかは区のほうで持ちながら活動していただいている段階があったりですとか、あとは「エンターテイメントチャレンジャー支援事業」、「えんチャレ事業」と言っているのですが、これは和太鼓であったり、演劇であったり、それぞれの分野に応じた 8 個の団体の支援をしております。どういう支援をしているかといいますと、発表会の会場費の減免であったり、「あだち広報」なんかも使いながら周知しているというところで、昨年度は中国雑技の団体が新たに登録されているなど、ギャラクシティを中心に行っているものでございます。

また、今後の方向性の「イ」にありますとおり、郷土博物館、やはり郷土愛を育むというところで、歴史であるとか民俗であるところの学芸員が、学校であったり地域団体のほうに出向いて、地域の歴史というか成り立ちを話すなんていうところも非常に活発に行っているところでございます。

■西岡部会長

西岡です。これはエントリーをして、今 9 団体ですか、選ばれたということでもいいのですかね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい、そうです。

■西岡部会長

結構厳しいあれがあるのですか。書類上のところで、よさそうなものを選んでいくような感じですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。どういうことをやって、どういう方向性でやるかということを確認しながら「じゃあ一緒にやっていこうか」というところで。

■西岡部会長

ありがとうございます。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

こちらの「えんチャレ」については基金を活用しながら支援しているものでございまして、ふるさと納税の基金なんかも使ったりですとか、J・COM の配当金なんかも、最近は区の財政当局からも文化芸術部門に関してはお金を回していただけるような状況になっておりますので、活発に行えるようになっているところでございます。

次、2-3 でございます。次のページをおめくりください。活動の成果を発揮できるイベントということで、活動を継続するためには、いわゆる成果を発表して、やりがいと達成感を得なければいけないというところもありますので行っております。

要因分析を見ていただきますと、1つ目の「ア」の「サークルフェア・ふれあい祭り」、こちらは学習センター単位で行っているもので、全てのセンターで活動しているサークルさんの発表の場を設けております。こちらは毎年4万人程度の来場者がおります。コロナ禍で一回停滞したところはありませんけれども、V字回復で行われているところでございます。

また、「あだち区展」であるとか「美遊展」という足立区の文化団体連合会の発表会なんかも含めて、区のほうでは発表しているところでございます。イベントの数については、21 イベントあったものが18に減ってしまっております。これは文化団体連合会から抜ける団体も少しずつ出てきているところがございますので、若干減っているところはございます。

また、その他としまして、「ADACHI 障がい者アート展」、こちらは障害福祉センターのほうで、通所の施設なんかもお子様が作ったアート展をやっておりますが、こちらのほうでは「ふれあい発表会」という舞台のほうの発表も、一時停滞したものが昨年度から再開しているものでございます。

以上が2-3の説明になります。

■西岡部会長

よろしいですか。西岡です。

「ADACHI 障がい者アート展」なんかは足立区内だけのものですね、今のところ。区外との連携とか、そういう可能性みたいなものは、荻野委員なんかにちょっとご意見を伺いたいのですけれども、そういう区外の連携みたいな可能性というのはあるのでしょうか。例えば藝大なんかでも、障がい者の皆さんのアート展みたいなことは企画みたいなものはやっていますので、もう少し大きくしていけそうな気がするのですけれども。

■荻野委員

一応、今の段階では、足立区内だけの募集になっていますよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

足立区の NPO とか社会法人のところから実行委員会形式で、代表が集まって皆で考えているの

ですよね。

■荻野委員

そうなんです。私もその実行委員会に関わらせていただいているのですが。

■西岡部会長

ほかの区でももちろんそういう催しはあるので、何か連携とか、あるいは作品をお借りするとか、ある意味では外に出すとか、そういうことでもう少し発展性があったらいいかなという気はしました。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

実行委員会で、もしそういう意見があればお願いできたらと思いますけれども。

■荻野委員

そうですね。そういうふうに広げていければあれなのですけども。作品を守るとか、そういう意味でも、例えば展示品がなくなったりとか、いろいろあるのですね。なので、あしすとさんのほうでもいろいろ気を遣われていて。皆さんが当番制で一応見守りをしているのですけれども。せっかく作った作品を皆さんが出してくださるのだけれども、気に入ったものを持っていかれてしまうというか。

■西岡部会長

大問題ですね、それは。作品がなくなるというのは。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

通所とか、障がい団体のところに聞くと、なかなか発表する場がないので。この場合は、本人も喜ぶけれども、お父さん、お母さんがとても喜ぶ姿をよく見られます。

■西岡部会長

ありがとうございます。

では、3に行ってもよろしいでしょうか。

■小泉委員

1つだけ。小泉です。

障がい者アート展の部門を見ていますが、応募は団体を通じてということですかね。団体に加入していない障がい者の方も結構アートに関わっている人は多くて。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

個人応募もできます。

■小泉委員

個人応募もできる。そういう問合せもありますので。本当に自分で芸術的な作品を持ったりして。分かりました。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

あだち区展にも障がいのお持ちの方も結構応募されていまして、通常 2,600 円かかるのですけれども、障害者手帳を見せていただけると無料で展示できたりするのですけれども、大作をお持ちになる方も結構多かったです。

■荻野委員

アート展のために 1 年かけて作品を作っている方もいらっしゃるの。

■小泉委員

障がい者の方の作品がビジネスにつながったらとか、そういうのが脚光を浴びている例もありま

すのでね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

感性が豊かだったり。

■西岡部会長

いろいろな展開がありそうですね。

■田島委員

すみません。2点あって、先ほど2-2で将来アーティストを目指す方たちを支援しているとおっしゃっていて、大体ギャラクシティ中心で行われているというふうにおっしゃったのですが、このギャラクシティが再来年ぐらいから3年間ぐらい使えなくなるということを見越してどのようにお考えなのかという。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

発表の場合は西新井文化ホールを使われる方が多いのですが、その代替はどうしても用意しなければいけないかなと思っています。今ですと、シアター1010であったり、竹の塚のホールであったり、綾瀬に数年後にできたりするものもありますので、そういった発表の場を規模感に応じながら続けていかないと、3年なくなると……

■田島委員

臨機応変をお願いします。結構大きいかなと思っています。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

その辺も支援していきたいと思います。

■田島委員

もう1点質問なのですが、2-3であだち区展や美遊展、文化祭などの事業が、21イベントだったのが18イベントになったというふうに書いてあるのですが、これってどんな原因で、少子高齢化だったり、そういうことですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

地域文化団体が文化団体連合会から脱退してしまう方も、取りまとめの方がどうしても高齢になって継続できなかつたりするときに、やはりこういうイベントが減ってしまうというところですね。

■田島委員

若い人たちが参加できるような取組というのはなさっていたりするのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

既存のメンバーに新しい若者が入ってくるというのが、なかなか……

■荻野委員

難しいですね。私も美遊展には作品を出させていただいて、ハワイアンリボンレイを練習しているのですが、いろいろ作品を作って、年に2〜3回は区役所ロビーに飾っていただいているのですが、なかなか団体の維持というのが難しいですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

最近、若い方は、昔って、そういう講座とかに行かないと学べなかったのですが、インターネットが普及してきて、自宅でも自分で学べるような環境になってきているところが、本当は新しいもの、新しいものを泡のようにつくっていききたいなというふうには思っているのですが、なかなか若者の部分が、昔のようにサークル化がしばらく環境になってきているのかなというのは、

学習センターの状況を見ていると感ずるところかなと思っています。

■田島委員

今後 10 年ぐらいかけて今の方々がさらにご高齢になると、なくなっていってしまうという……

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

維持しつつ新しい形も模索していかないといけないのかなというふうには思っています。

■田島委員

新しい形でうまくいっている自治体さんってありますか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

まだ今のところは聞かないですね。もしあればお知恵を頂けたらなとは思いますが。

■西岡部会長

あまりにもデジタル化が進んでいるので、対面のよさみたいなことに戻ってくるような気もしますけれどもね。

■田島委員

ありがとうございます。

■葛西委員

資料 3 の 21 ページ目の「えんチャレ」のくだりのところで、令和 6 年度の目標値が 13 団体で、令和 6 年度の実績値が 8 団体で達成度が B になっているのですけれども、右の説明を読むと、新規登録の応募が 2 組あって、うち 1 組が不合格、登録団体の更新審査で 5 組が不合格と書いてあって、去年も議題になったと思うのですけれども、数値以外の何かしらの目的が恐らくあると思われるのですよね。ちょっとその理由があれなののですけれども、そこがその表だけだと見えてこないのがすごくもったいないなと思っていて、多分審査されている方の中で、足立区にこういう文化を残したいみたいな思いがあると思われるのですけれども、そういうところをこの取組でも拾っていけると、より豊かな文化芸術を残していくというところにつながっていくんじゃないかなとすごく思っておりますが、いかがですか。

■西岡部会長

すみません、ちょっと場所。ついていけてなかった。

■葛西委員

資料 3 の 21 ページ、右下にページ数が。

■西岡部会長

すみません。僕のは古い資料なので、ページ数がついていなかった。

■葛西委員

その目標値が 13 団体で、実績が 8 なんですね。結局達成度は B になっちゃっているのですけれども、内訳を見ると、応募が少ないわけではなくて、不合格にしているという背景があって……

■西岡部会長

5 組不合格ですものね。

■葛西委員

そうすると多分、数値的には達成しているけれども、中身的に達成していないというか。ただ一方で、中身という話がどうしても定量的な数字の評価になってしまうので、ちょっとその辺が。去年も思ったところなのですが、難しいところだなと思った次第です。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

数字だけ追うならば、5組残しておけば13になった。

■葛西委員

そういうことですよ、多分。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。ただ、実際に活動していないのに名前だけ残すのはどうなのかという。

■葛西委員

いろいろなあれが、多分あるということですよ。

■西岡部会長

ここは厳密に基準が持たれていて、そこにどうしても合わない団体というのがあるということですよ。応募の中にはね。それは全体のレベルを下げないためにも必要なことではある。

■葛西委員

それは中身というか、活動頻度というのがある。中身ではそんなに関係ない。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

両方ですね。落ちているところは、やはり活動頻度が下がっている、ほぼほぼないところだったりするので、そうすると当然、中身もなかったりする。

■葛西委員

そういうことですね。例えば中身のジャンルを区切るみたいなことはない。分からないですけども、いろいろなジャンル別にとというのはあるということですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。ジャンルは特に問うていないので。

■葛西委員

中国雑技もオーケーということですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。中国雑技もですからね。熱意と活動と、やはりエンターテインメントを目指しているところの。そうしないと通常のサークルと変わらないのに使用料が減額とかというのは。

■葛西委員

「えんチャレ」に関してはそういうことですね。

■田島委員

減額すると、かなり減るのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。シアター1010とかで発表したりすると、金額は十何万違ったりします。そうすると、見に来る観劇料も全然変わってくるので、当然集客量も変わってくるので。

■西岡部会長

西岡です。こういうところに出ることができた団体というのは、すごくいい経歴になるわけですよ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。

■西岡部会長

ただど今のところは、その後までは面倒は見ないということですよ。できればプロで活動したいという人たちでしょうけれども、経歴とかそういうことにしてもらって、公演のチャンスを与え

てということですね。なかなかそれ以上のプロモートというのは難しいですね、実際に区では。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

売り出すというところまでは。

■西岡部会長

もちろんそうですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そこは個々の努力なので。

■西岡部会長

そうですね。彼らが自分たちで、例えばいろいろな事務所関係の人たちを呼ぶとか、そういうことをすればいいわけですからね。

■小泉委員

よろしいですか、小泉ですが。「えんチャレ」、プロを目指すというか、羽ばたいていった人もいるし、断念した人もいる。会場は減額減免で借りられたとしても、例えば大道具、小道具だとか、そういう必要な分野のものというのはかなりお金もかかって、例えば踊りだとか何かだと着物だとかそういうものは個人負担も大変だなと。プロを目指しているにしても、プロになったわけではないので、そういう部分というのは単純に場所を貸すだけで、セットというか、そういうところにお金がかかるような分野の方でも特に差はつけていないというか、基本的にはそういう考えですね。一応任期ではないですけども、期間を設けて、一回選ばれて事業を知っていただいたにしても、あとは自分の努力よという。基本的にはそういうお考えということですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

場合によっては、更新はしながら。継続しながら支援していくというところですね。

■葛西委員

私は「えんチャレ」にお世話になった側の人間なので、すごく難しいところだなと思うのですが、そうですね。いろいろな……

■小泉委員

人集めは大変ですよ、これは。

■葛西委員

場所をあれするというのと、プロを目指すという意味において、ある種公平ではあると思うのですし、私はお世話になった側の人間なので言葉にしづらいのですが、それが果たしてどれだけ本当に、今もお世話になっているのかな、ごめんなさい、ちょっと分からないのですが、うちは和太鼓チームがずっとお世話になっていて、私は離れてしまっているのに継続しているか分からないのですが。「えんチャレ」に所属している方々が区のためになっているとか、逆に不合格になった5団体さんがどういう基準で不合格になったのかというのが、もう少し表に出ていいのではないかなと正直思う部分がありはします。エンターテインメントというか、芸術の世界って、その辺が難しいですよ。最終的には審査員の好みみたいなのところもあるでしょうし。

■西岡部会長

ちょっとジャンルが広すぎて、なかなか難しいですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

比較がしづらいです。

■葛西委員

そうですね。さっきご質問した意図が、去年と同じ議論で、この会議でその議論をするのは健全ではないかもしれないですけども、例えばアイドルグループとかが「えんチャレ」に応募してきてジャンルとして通るのかしらとか、一方で、それを文化芸術で捉えている記述が別のあれではあって、そうすると突き詰めると足立区さんの考える文化芸術とは一体何かみたいな話になってしまうのですけども、その辺がこのプロジェクトって非常に難しいところだよなと改めて思ったところではあります。

■傍嶋委員

お笑い、音楽、演劇、芸歴不問ですから、何だっていいということ。

■小泉委員

漫才だとか。

■葛西委員

漫才もいらっしゃいますね、確かね。

■傍嶋委員

チャンスは年2回と書いてありますね。

■小泉委員

継続できなかった理由が知りたいと言われたら困りますよね。太鼓の彩さんみたいなものも有名でね。

■葛西委員

彩さんは今も入っていますね。

■田島委員

足立区民の方ができる。区に関係している方が出ると料金が……

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

一定程度あります。全く関係ないところもあります。ちょっと細かいところであれなのですけども、割合であるとか、足立区在住在勤とか、そういうのは、たしかあったと思います。

■西岡部会長

西岡です。そういう機会を与えるという意味ではすごくいい企画ですし、その評価のところにもう少し客観性みたいなものということになれば、いろいろなジャンル全ては集められないにしても、第三者というか、そういう人たちに少し入っていただくみたいなことでもいいかもしれないですね。

■傍嶋委員

傍嶋です。個人的には絵画分野もあっていいのかなと、アートとか。区内の施設で、無料で展覧会。展覧会をするのにもお金がかかるので、そういった場合は芸術家の分野でも。

■西岡部会長

アートチャレンジですね。「えんチャレ」というより、アートチャレンジみたいな。

■傍嶋委員

基本的にスタートアップみたいな感じが。自分たちがメジャーになるための支援、厳しい審査はあってしかるべきだと思いますし。ちゃんと活動して区内で発表するというのが、そこら辺も「えんチャレ」に関わる方々の指標が何かあるのかなとか。年に1回は区内で発表を行うとか。葛西さんが言われたとおり、そこら辺が見えてこないと何で外れちゃったのかなと。ただ、ホームページを見る限り、OBとして紹介されているので。卒業ということで、なるほどなという感じだなと思います。

■西岡部会長

ありがとうございます。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

事務局、大久保です。時間の関係でご案内させていただいて、こちらの評価は、今、柱2まで進んだのですが、残りの柱3と柱4を、おおむね3時25分頃から3時30分ぐらいまでやらせていただいて、残りの時間をアンケートの議論という形でやらせていただければとありがたいかと思います。よろしくお願いいたします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

3と4が2つずつあるので、まとめてご説明させていただいてよろしいですか。

では、柱3「足立区の文化資源を次世代に継承する」ということでございます。

3-1は「文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する」でございます。評価のところを見ていただきますと、要因分析としましては、特に大きかったものは、2つ目のイのところですね。舎人氷川神社本殿で龍の彫り物が12年ぶりにご開帳ということで、地域の方を含め2,100人と長蛇の列になるぐらい見に来ていただいたということで、こちらは文化財を区民の方が見に来ていただきたい機会かなと思っております。

また、その他実績等にあります「ビビビ美アダチ」で、漫画で酒井抱一とか昔の絵描きの方の紹介をしたような冊子をコロナ禍の中で作りました。そうすると、お子様であるとか、文化財、文化遺産に関心がなかった方も入りやすい入り口になったのかなと思っております。

今後の方向性としては、先ほど部会長からありましたとおり、郷土博物館のリニューアルオープンが4月26日に終わりました、ゴールデンウィークまでの無料期間が2週間ぐらいあったのですが、その間に6,100人、例年というと半年分ぐらいが2〜3週間で来ていただいて、特に最近ですと、今までは民俗とか、こういう住まいにしましたよというところの博物館的なイメージだったので、今は美術博物館という名称のうたい文句にしておりまして、江戸時代から明治初期にかけて、足立区がこういう生活環境だったので、豪農とか名士の方がパトロンとなって絵師を囲って、支援しながら絵を描いてあるのが残っている。そのときは大上々国といいまして、幕府のほうからも豊かな土地であると。それは作物だけではなくて、民度も含めて豊かだったというような書物も残っているというところで、昔の足立区の誇りを今また改めて感じられるようなつくりに変えているところですので、そういうところはぜひ見ていただきたいなと思っております。

続きまして、3-2が文化遺産の伝統芸能というところでございます。おはやしの団体がございますが、やはりその維持・継続というところをしっかりと支援していかないといけないと思っております。最近ですと「しょうぶまつり」が5月にありました。また、区民まつりにおいても、おはやしの演奏会、体験を行っているところでございます。秋にはギャラクシティでも「郷土芸能大会」を行っておりまして、昨年からはギャラクシティにたまたまいらっしゃったお子様がたたける体験の場を開催しながら、触れる機会を提供しているというところでございます。

その次、柱の4番になります。

こちらは「文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する」ということで、4-1については情報発信でございます。こちらに関しては、区のホームページを含め、各施設の機関誌であったりとかチラシなんかを足立区では非常に力を入れて行っておりますので、見せるチラシをしっかりと作っていくこと。また学習センターでは、ミニコミ紙といって、袋とじのところにあるのですが、

各センターが非常に工夫を凝らしながら、普通のセンター紙というよりは小冊子にまとめて、「最近ではこういう取組をしていますよ」とか、「こういう講座がありますよ」みたいなものを作り、小中学校に配布しながら、より活用していただけるように、参加していただけるような試みも行っているところがございます。今年は千住宿開宿 400 年ということで、郷土博物館でも特別展をやっているのです。そういったところで区内の文化財の周知をしているところがございます。

次、4・2に行かせていただきます。駆け足で申し訳ありません。

こちらは連携・交流の機会を充実するというものでございます。人の連携というところございまして、こちらはどちらかという一番難しい分野かなとは思っておりますが、民間団体と連携を強化することが、地方公共団体における文化芸術の振興に最も重要なものであるよというところは国の基本計画でも載っているところがございます。こちらは3計画のアンケートの中でも、まだまだ指標が低い部分でございます。

こちらについても、最近ですと区長が伊興遺跡公園に TOKYO MX の取材で行かれたりですとか、「国華」という美術雑誌に郷土博物館が紹介されたりとか、まだまだこれから進めていくのですけれども、新幹線の背もたれに入っている雑誌「ひととき」からお声がけがあったりとかして、これは非公開なのですが。これはカットですかね。いろいろ郷土博物館がアプローチされながら、その中で大学の先生とか、最近ですと小布施の展示物に足立区も出したりとか、ほかの美術館、台湾なんかにも……

■西岡部会長

台湾はありましたね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そういうところで博物館同士、また自治体とも連携しながら広めているというところが非常に大きいかなと思っております。

その他実績等の「ウ」に書かせてもらっているのですが、最近ですと、藝大とギャラクシティのプラネタリウムと一緒に連携したりとか、区内の団体間もうまくつなぎながら機会を設けた公演というところも力を入れているところがございます。

私のほうからは以上です。

■西岡部会長

ありがとうございました。

では、この3と4についてご意見を頂きたいと思っておりますけれども。質問でも結構ですが、何かありますでしょうか。3、4ですね。

■傍聴委員

傍聴です。先ほど地域交流センターのミニコミ紙について、デザイン性が高いとおっしゃったのが、結構前の評価会で冊子のデザインをどうにかしてほしいという助言が完璧に反映された結果で、皆さん、結構大きいですよ。言ってみるものだなと。ただ、見たときに「ああ、ちょっと残念だな」と思っていたところが、これはなかなか。そうなることによって、よりいろいろな人が見たときに関わりやすいきっかけになるので、あながちこの会は結構重要ですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

意見がずばり反映された好事例だなと思います。

■傍聴委員

長年通して言ったのは、そういうことだと分かるので。

■西岡部会長

予算も結構かかっていますよね。

■傍嶋委員

ぱっと見が違いますものね。

■西岡部会長

全然違いますよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

前が前だったので。

■傍嶋委員

手作りという感じ。

■事務局（地域文化課調整係長）

これはセンターによって全然違います。デザインもセンター独自でやっています。

■田島委員

デザイナーに依頼してみたいな形ですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

各センターにデザイン担当がついたりしています。プロ化していますね。毎号、区長が目を通して、「これはこうじゃないの」みたいな。

■田島委員

田島です。郷土博物館がすごくいいなと思って。ただ、アクセスがちょっとあれだなと思っていて、例えば足立区の小学生だったり中学生が遠足とかで行ったりとかあるのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。オープン以降、続々とバスでお越しいただいて。小学3年生、4年生ぐらいが多いですかね。

■田島委員

それは決まっているとか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

随時ご相談いただきながら、時間を調整して。

■田島委員

「美女と野獣」みたいな感じで、皆さん必ずみたいな。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

必ずではないですね。やはり学校の科目のカリキュラムですかね、時間調整の中で。

■西岡部会長

総合とか、回数があるので。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

今年は多いですね。

■田島委員

ぜひ義務化じゃないですけども、そうなったら皆さん行きやすいんじゃないかなと。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

毎週いらっしゃっています。特に5月、6月ぐらいが「自分の住んでいる地域を考えよう」みたいなテーマが学校の中にあるらしくて、それでやはり郷土博物館に。

■小泉委員

小泉です。例えば足立区の昔の暮らしぶりとか、郷土博物館なんかにも出ていたのですね。区内で見ると、都市農業公園なんかでも昔の生活を再現したものがあつたと思うのですが、足立区で農業だとか紙すきだとか、そういう文化があつたということも本当にいいなと思いますし、つい最近、余計目立ってきたというのは、琳派が足立区で育つたという。これは意外と知らない人もいて、これだけ発展してきたのは足立区の関係者のおかげで花開いていったという、これはもっと PR してもいいのかなと思います。すばらしい作品も、倉庫の中に眠っているのがいっぱいありますよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

まだまだ未公開のものもあると思います。

■小泉委員

未公開はいっぱいありますよね。

■西岡部会長

美術品発掘の事業というのは大分進んでいるのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

進んでいますね。80 周年のときから、そういうものが続々と出てきまして、まだまだ今、千住の蔵は「来てくれ」というようなお声が。

■田島委員

千住に蔵が……

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

千住に蔵があるのです。僕もここに来るまで存じなかったのですけれども、「うちの蔵をちょっと見てくれる？」というのが。

■小泉委員

横山大観の絵だとか、ほかにもいっぱいあると思うのですが。聞いたところによると、足立区の郷土博物館とか、美術品を引き取ってくれと言っても、断るぐらいいっぱいあるのですね。しまうところがない。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

入り切らなくなるぐらい。

■小泉委員

むやみやたらと寄附は受け付けない、そういうことをお聞きしたことがあるのですけれども。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

選んじゃいますかね。そんなことはないですけれども。

■西岡部会長

だけど、今は選ばないとちょっと大変なことに。図書館も図書をなかなか引き受けてくれなくなつて。

■事務局（中央図書館長地／3 分野連携担当課長）

事務局、大久保です。図書館は確かに、一般の方からの寄贈ってお受け付けができなくて。書庫がいっぱいになってしまひまして。お気持ちだけ頂いて。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

それでも外部倉庫を 2 つ、3 つ今借りたりとかしています。所蔵品は空調も大事なので、保存状況をよく保存しなければいけない。お金がかかりますね。

■小泉委員

温度、湿度の関係ですね。

■田島委員

たくさんの人に来てもらいたい場所ですよ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。どんどんうまく周知しながら。

■田島委員

幼稚園とかもツアー組んでお願いします。

■傍嶋委員

傍嶋です。4・2の「アートリンクカフェ」について詳しく聞きたいのですが、アートリンクカフェで交流しているのが、去年の5月にアートリンクカフェフェスティバルというのを開催して、アートリンクというのはどういった集まりなのか。

■事務局（地域文化課調整係長）

早川です。去年から、もうやっていないんです。

■傍嶋委員

やっていないですよ、令和5年までと書いてあったから。これは今後はやらない？

■事務局（地域文化課調整係長）

今のところ予定はしておりませんね。

■傍嶋委員

了解です。

■西岡部会長

これはやめた理由というのは。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

これはちょっと確認をさせていただいて、お調べをさせていただければと。

■傍嶋委員

去年の5月25日にアートリンクカフェフェスティバルをギャラクシティで開催していて、それで……

■事務局（地域文化課調整係長）

ギャラクさんのほうで多分引き受けてくださっていたと思います。北千住の生涯学習公社のほうであったやつを、多分ギャラクさんのほうで引き受けてくださった形になっていたと思います。

■西岡部会長

形が変わったんですね。カフェというのとギャラクシティというので、ちょっとニュアンスが違っているので、発表の形式とか催しとしては……

■事務局（地域文化課調整係長）

指定管理者さんが引き受けてくださったので。

■西岡部会長

両方共存してもよさそう。カフェというとし少し気楽に。例えばアートリンクカフェがあって、ギャラクシティでフェスティバルがあるというような、そういう関連性みたいなことがつくれるかもしれないですね。ありがとうございました。

ほかにご質問、ご意見いかがでしょうか。

■小泉委員

国立劇場との協定を結んで、区民が応募して何人かに見ていただいたということだと思うのですが、これはそんなに昔ではないですよね。協定を結んで1〜2年じゃないですか？

■事務局（地域文化課調整係長）

4年に協定を。

■小泉委員

理由ですけれども、これを見て、新役員の紹介だとか、いろいろな役員の方のつながりだとか、そういうところから来たのでしょうか。いきさつというか、協定を結んだいきさつは。

■事務局（地域文化課調整係長）

文楽のですか？

■小泉委員

国立劇場との。

■事務局（地域文化係長）

国立劇場が今、改修に入ってしまったのですね。ただ、まだ入札も決まっていないような状況みたいで、ちょっと暗礁に乗り上げてしまっているのですけれども。改修するに当たって、どこか劇場をずっと探していらっしゃって、シアター1010が箱の大きさがちょうどいいよねというところでお話を頂いて、それから協定ということで決めました。

■小泉委員

区の施設を使うということによって、国立劇場とか、あそこに小劇場とかありますけれども、そっちの利用とか、そういうことも関係しているのですか。国立の施設に。

■事務局（地域文化課調整係長）

半蔵門にある国立劇場です。すごく古い、歌舞伎と文楽をやっているようなところになるのですけれども、あそこも閉めてしまっていますね。

■西岡部会長

一つは大阪万博のせいもあるのと、改修費用が物すごく高騰していて、工事がなかなか。

■事務局（地域文化課調整係長）

落札にならなかったの。まだ落札していなかったと思います。一体どうになってしまうのだろうというニュースにはなっていました。

■西岡部会長

美術館もそうですけれども、公開できない、公演できないときが外にいろいろ出るチャンスではあるわけですからね。だけど、催し物としてはすごく充実していていいですよ、文楽。

■事務局（地域文化課調整係長）

でも、ほかの区でもやり出していますね。借りるのにすごく苦労されていましたが、シアター1010は規模も小さめなので。あとは盆とって、太夫さんたちがくるって出てくるところもちゃんとつくってあったりとかして、そこもできたので、すばらしいなと。

■小泉委員

グレードが高いというか、私も文楽をやっているときシアターにいたんですよ。中には入っていないですけれども。来場される方は、本当にそういうのがお好きな方なんだな、理解ある方なんだなという雰囲気は感じましたけれども。

■事務局（地域文化課調整係長）

やはり伝統芸能なので、足立区の文化度がすごく上がったのではないかなと私は思っています。

■西岡部会長

絵画のほうもあるし、こういう芸能のファンはあるし、そういうのを連携してちょっと盛り上がりそうな気はしますね。ありがとうございました。

では、事務局から3分野の計画の評価について説明いただきましたけれども、皆さんからの意見、ご質問がなければ次に移らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

事務局、大久保です。補足をよろしいでしょうか。

先ほど、あだちアートリンクカフェについて廃止の経緯等のお話が上がったかと思うのですが、詳細は分かりかねるのですけれども、公開されている生涯学習振興公社の事業報告書を見ますと、令和4年度をもって終了するのですが、別の形での情報交換会の実施を支援していくというような形で終わっています。それがこのギャラクシティの事業につながっているかと思うのですが、詳細は改めて確認させていただきますので、公式にこちらの事業は一旦終了という形となっているようです。

■西岡部会長

ありがとうございました。

■葛西委員

葛西です。今の4-2のところで、それぞれの取組は素晴らしいと思うのですが、施策4-2の施策の方向性を書いてあることと3の担当部における評価に書いてあることが、果たして目的と手段が一致しているのかなというのが若干疑問で。施策の方向性のところで、「区内において様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、そういう主体が活躍している、それらの主体がゆるやかにつながるプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図る」と書いてあるのですけれども、担当部における評価のところは、国立劇場との協定によるシアター1010での公演だったというの、個別のプロジェクト自体がどうこうというよりも、この項目としての評価として本当に正しいのかなというのが若干気にはなったのと、これも今さらだとは思いますが、その評価指標として、指標名②の「足立区は文化芸術の推進に力を入れていると感じている区民の割合」というのと、指標名③のところの項目で本当に取れるのかなみたいなところを、もう一回検討してもいいんじゃないかなとは思った次第でございます。

■西岡部会長

具体的にいうと、国立劇場などとの連携については項目が違うのではないかなということですか。

■葛西委員

この上の施策の方向の日本語を正とするならば、それがまさに達成状況への評価とか、今後の方向性への評価にもつながっていくと思うのですけれども、書き方なのかが違うのではないかなというのと、そもそもの成果指標の取り方を検討する必要があるのではないかなと思っただけでございます。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

基本ベースとしては区内の団体の連携ということになってくるとは思うのですけれども、それに加えて、高度な専門性というか文化度の高いところとの連携なんかも非常に必要なかなと思っで一応記載させていただいているところですが、メインどころとしては、藝大とギャラクのコラボであったりとか、町場の住宅と郷土博物館が連携して展示会なんかをやるとか、そういうところに

新たな角度から芸術の団体が入ってくるとさらにいいのですけれども、そういうところはこれから深めていかないといけないのかなと思ってはおります。

指標については、確かにおっしゃるとおりですね。これではなかなか取り切れないところかなとは思いますが、なかなかこの指標を合致するものが難しいなというところではあるので、また再考はさせていただきたいと思っております。

■葛西委員

プラットフォームって将来的に何かそういうのを計画されていらっしゃるということですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

特段、その形としてあるというよりは……

■葛西委員

ということではなく、緩やかにネットワークがつながっていると。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

ネットワークを緩やかに連携を、顔が見える関係性がつくれていけたらいいのかなと。

■葛西委員

了解しました。

4 新計画策定に向けたアンケート質問項目について

■西岡部会長

ありがとうございます。

それでは、次に移らせていただきます。項番4の「新計画策定に向けたアンケート質問項目について」、事務局から説明をお願いします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

私のほうから資料7-1、7-2、参考資料1を使用してご説明させていただきます。

大枠の考え方について、第2回の全体会でお話しした内容からは大きな変更はございませんが、事務局案にお示ししてあるとおり、経年比較の観点からゼロベースで全て見直すのではなく、項目の見直しであったり、内容の改善を中心にご検討いただけたらうれしいなと思っております。それぞれの多様な立場からご意見を頂けるとありがたいと思います。よろしく願いいたします。

■西岡部会長

例えば資料7-1とかに関する質問とか意見とかでよろしいですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね、この項目に関して。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

ちょっと補足説明をさせていただきます。

資料7は1と2がございます。これは今回のアンケート項目の一覧の案になっています。表形式になっていまして、文化・読書・スポーツ全て、オールインワンのアンケートなのです。ですので読書とかスポーツの設問も入ってしまっていますが、今回は読書とかスポーツの設問ですとか、3分野共通の基本属性のご質問ですとか、そこの部分というよりも、限られたお時間の中ですので、文化・芸術の項目に特化してご意見を頂ければというふうに思っています。

具体的には、7-1で申し上げますと、めくっていただきまして、2ページの「文化芸術について」という網かけの見出しがありますが、そこから下の11番から20番までが文化芸術の項目になって

います。1つ項目の番号が抜けているもの、12と13の間に項目番号が抜けているものがありますが、これは事務局からのご提案なのですが、新規の質問という形になります。

これを実際の調査票で見ますと、参考 1-1 をご覧ください。A4 縦のホチキス留めのものです。これが令和 3 年度に行ったアンケートの実際の調査票なのですが、文化芸術の質問が 5 ページからになります。資料が 2 つに分かれてしまって大変申し訳ないのですが、実際の調査票は、この A4 縦の 5 ページから。項目の一覧ですとか、事務局のほうで今回こういう質問を入れたいですとか、この選択肢を追加したいですというのは、この表のほうにまとめさせていただいております。調査票をじかに直していなくて、調査票は過去のもので、それをこう直したいですというのが、このリストのほうになっております。

具体的に申し上げますと、例えば 5 ページの「文化芸術について」の間 11「あなたが興味や関心があるものはどれですか」という設問がありますけれども、これについては事務局のほうでは今のところ変更の予定はございません。基本的には継続の質問としたいと思っていますので、この表に見出しがなくて分かりづらいのですが、左から 2 番目に「○」がついているのは継続という意味になっています。なので、基本的には継続という項目については、先ほど江連からも説明がありましたけれども、今回アンケートで全ての項目を新しく取るということではなくて、経年変化を取る部分も大事ですので、基本的な大きな質問については、経年変化を取る観点から継続の質問とさせていただいています。中には、この質問は少し答えづらいですとか、もっと新しい項目を取りたいというものが、このタイミングで出てきましたので、そういう大きな経年変化を取るもの以外で、ちょっとマイナーチェンジを図りたいものを事務局から提案させていただいているという趣旨になります。

ですので、本日は皆様から事務局の提案に対するご意見、ご質問ですとか、この事務局の提案にないものでも、例えばここまでの評価のご議論の中で、先ほど葛西委員からも、成果指標として取れていないものがある。例えばプラットフォームに対しては今の指標が適していないというようなご意見もありましたので、それであればアンケートで例えばこういう質問をして、こういうのを指標として取ってはどうかというようなご意見も非常に参考になるかと思っておりますので、そういった形でご議論を頂ければありがたいかなと思っております。

資料が 2 つに分かれてしまって見づらいのですが、基本的には事務局の新規だったり、変更の提案に対するご意見と委員の皆様からのご提案、このあたりで意見交換をしていただければと思います。

■西岡部会長

今、新しい質問項目の提案というのもちょっと難しいかもしれないのですが、例えば事務局のほうのご判断で削除したほうがいいんじゃないかというものが幾つかあります。資料 7-1 の 2 ～3 ページ目なのですが、13、16、18 あたりは削除してもいいんじゃないかというご提案なのですが、まずこれについていかがでしょうか。

■葛西委員

葛西です。13 の狙いのところに書いてある意味が、いまいち……、ごめんなさい。これを削除するということか。

■西岡部会長

そうです。右側の①が分かりにくいのですが、今言った 13、16、18 は事務局のほうで削除してはどうかというご提案です。これは両方見ていかないと、なかなか急には判断ができない。

■傍嶋委員

どこかなというのが分からない。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

部会長がおっしゃるように、削除するもの、変更するものを順番に確認していったほうがよろしいかなと思います。ですので、まず削除の項目が妥当かですとか、変更は20番のみなのですけれども、その後に20番を見ていただくですとか、そういう形で。こちらの調査票ベースでご確認いただいたほうがよろしいかなと思います。

■事務局（地域文化課調整係長）

調整係、早川です。アンケート自体の中身なのですけれども、文化芸術についてと読書について、あとスポーツについてと3分野全部一緒になっているのですけれども、文化が一番ボリュームがあるので、多少削除したほうがいいかなという事務局の判断なのですね。あと指標にあまり関係ないものは、この際ズバリ切ってしまうかなというところと、私のほうで、入れてみたら面白いかなと思ったのが12と13の間なのですけれども、情報発信は事務局というか区役所全体ですごく苦労してはいるので、興味のない人ってどうしても届かなかったりとかもしますし、興味のある人にダイレクトに届くにはというのは役所内でもすごく問題になっているので、何で情報をキャッチしているのかというところが年によっても多分違うと思いますし、それをアンケートを取ってみると面白いかなというところでつけさせていただいております。

■西岡部会長

これはいいですね。今は年代によって使っているツールが全然違うので。しかも新しいものが出てきたりとか、しょっちゅうしていますので。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうですね。多分年代でかなり違っちゃうのかなというところも。

■西岡部会長

かなり違うと思います。全然学生と話が合わないですから。通信の方法で、まずいろいろ問題が起こっている状態です。もうメールなんかは、あまり見ない学生も結構。

■事務局（地域文化課調整係長）

なので、ちょっと入れさせていただきたいなというところは。

■西岡部会長

そうですね。これは今必要な項目だと思います。

■事務局（地域文化課調整係長）

あと20番なのですけれども、前から「芸術に親しめる」という表現がちょっとどうなのかなというご意見が、たしかあったので。

■西岡部会長

そうですね。この間そういうご意見が出ていましたよね。そもそも文化芸術をどう捉えるかという。

■事務局（地域文化課調整係長）

「親しむ」ってどうなのかなというところで、もしいい表現とかあったら参考にご意見を頂けるとうれしいかなというところがあります。

■西岡部会長

「楽しむ」よりは「親しめる」のほうが合いそうですね。

■事務局（地域文化課調整係長）

表現は難しいですね。親しめる……

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

事務局、大久保です。ちょっと補足をさせていただいてもよろしいでしょうか。

先ほど質問の数は文化が一番多いのというお話があったことに関連して補足させていただきますと、今、全体の質問については約 50 問という形になっています。岩永会長は社会調査の専門家なのですが、基本的には 50 問以上増やしてしまうと回答率がぐっと落ちるので、全体の設問数は増やさないほうがいいだろうと言われています。ですので、例えばほかの分野がもし増やしたいということになると分野間で調整をしたりですとかが必要になると、あとは全体の中で削除する項目が決まっているものがありまして、コロナに関する質問というのは消したいというふうに思っております。このリストの 5 ページの 39～42 は、コロナ禍でこういった形で 3 分野に親しんでいたかというものがあるのですが、これはもう今や質問をする意味もなくなってしまいましたので、ここの 4 つはまるっと落としてしまっというふうには考えております。

以上、補足になります。

■西岡部会長

あと 8,000 から 3,000 でしたか。それに関わる影響というか、変更点みたいなのは、ここにはあまり直接は反映していないですか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

事務局、大久保です。サンプル数を減らすことで設問への影響というのは、今のところ考えてはおりません。改めて岩永会長には確認したいと思うのですが、現時点で質問を例えば減らすですとか、質問を変えるというようなご指示は今のところ頂いておりません。

■西岡部会長

分かりました。

そうしたら、削除の項目について説明をしていただけるのなら、13 について少し説明ありましたけれども、例えば 16 とか 18 の削除理由みたいなことが分かればと思ったのですが、それでも。

■事務局（地域文化課調整係長）

指標に特に関係がないので。質問以外なので取っても参考程度になってしまうので、この際切っています。

■西岡部会長

足立区で企画したものに参加して、その後どうなりましたかということですね、16 なんかはね。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうですね。

■西岡部会長

それから 18 は「あなたは、その活動をどのようにおこなっていますか（いましたか）」。

■小泉委員

指標と関係ない。

■西岡部会長

なるほど。そうですね、指標と関係ないですね。分かりました。

■葛西委員

よろしいですか。葛西です。削除項目は私もよいと思っていて、12で「何で知ったか」の中に多分、口コミなのか誰かに誘われてなのかを入れれば問13も拾えるんじゃないかなと思うので。

ちょっと1点気になるのが、問12と問15の選択肢が、問12のほうは「観たり、聴いたりした」、「したかったが、できなかった」、「しようと思わなかった」で3つあるのに対して、問15が「ある」と「ない」だけになっちゃっているのがちょっと気にはなりましたね。これも3つでいいんじゃないかなと思いました。

■西岡部会長

15ですか。

■事務局（地域文化課調整係長）

しようと思ったができなかった。

■葛西委員

「しようと思ったができなかった」でいいんじゃないかなと。

■西岡部会長

ほかの部分については、このままでほとんど問題ないと思いましたが。

■小泉委員

1点よろしいですか。小泉です。12と13の間の設問ですけれども、これは足立区が関わっている文化芸術情報の入手、この辺を把握するというのが目的ですか。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうです。鑑賞したうち過去1年間に……、12の下になるので。

■小泉委員

例えば、区内で開催されているイベントだとか、足立区外の民間だとか団体がいろいろな企画をして、足立区民がそこに行っているという事例もあるわけですよね。そういうものは対象じゃなくて、あくまでも足立区が企画しているもの、そういう状態を把握したいということでしょうか。

■事務局（地域文化課調整係長）

問12が特に区内・区外というのを区別していなくて。本当は13で区別するという形になってきているのですね。

■西岡部会長

この新しい項目というのは、ごく一般的にということによろしいですか。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうですね。何で把握しているのかというところになってしまうのですけれども、区内とかにフォーカスしたほうがいいですかね。

■葛西委員

足立区内のイベントに何で知って参加したかは分からないと。

■事務局（地域文化課調整係長）

全体になっちゃう。

■小泉委員

そうですね。文化芸術のいろいろな団体だとか、企画だとかというものもありますからね。

■西岡部会長

足立区内の中のイベントでも種類はあるので、区が企画しているものと、区全体で行われたものというのは少し違うかもしれないのですけれども、足立区内でやられていることは、全体的にどう

いうふうにそれにアクセスしたかということによろしいですか。区民の皆さんも分からないですよ、これが区の企画なのか、そうじゃないのかというのは。

■事務局（地域文化課調整係長）

確かにそうですね。

■西岡部会長

足立区内で行われている企画について、どういうふうにそれを知ったかということでいいですよ。

■事務局（地域文化課調整係長）

全体にするのか、区だけにするのか、すごく悩んだんですけれども、13 が結局それに当てはまって、区内のやつなのか、区外か、それともオンラインだけなのかとなっている質問になっているのですね。「過去 1 年間に何か観たり、聴いたりしたよ」というものの 1 番で「したよ」となると、この 13 番の今消そうとしている問いで、行かなかった人は 5 番になるので。

■葛西委員

ちなみに問 12 の選択肢を区内・区外で分けるのはあれですか。

■事務局（地域文化課調整係長）

分けてもいいです。ただ、そうするとまた設問が多くなってしまうんだよなと思って。

■西岡部会長

新しい項目は上に上がる感じですかね。関心のあるジャンルの次ぐらいになるわけですかね。足立区内の情報じゃなくて、「そもそもこういう情報を私はどこから得ていますか」ということですよ。

■事務局（地域文化課調整係長）

確におっしゃるとおり、見たものが区内だったのか区外だったのか、もしかしたら分からなかったりする人もいるかもしれないので。

■西岡部会長

それは条件をつけられると思うのですが、足立区内の中での区の企画かどうかということとは区別つかないですよ。それは無理ですよ。関心のあるジャンルということを知っていて、その次に「そういうものに対してどういうふうにアクセスしますか」という質問で、ここを 1 つ上げておけば、その次に。

■事務局（地域文化課調整係長）

1 つ上げておけば、特に。

■葛西委員

もしくは問 12 で「足立区内で観たり聴いたりした」、「足立区外で観たり聴いたりした」、「したかったができなかった」、「しようと思わなかった」。問 13 で情報の取得経路を聞けば、クロス集計で区内のイベントを何で聞いたかが取れるという気もしないでもないけれども、ちょっと分からない。そこはちょっとごめんなさい、専門家の方にお任せします。

■西岡部会長

僕もこういう統計のこととか分からないのですが、足立区民の皆さんが年代別に、そもそも芸術文化関係のことでどういう情報ツールを使っているのかということだったら、その目的だったらそれですし、今、葛西さんおっしゃったような、足立区内で起こっているイベントに対するアクセスの方法みたいなことだったら、その下に入れるとか。

■事務局（地域文化課調整係長）

クロス集計で、もしかしたらできるかもしれないですね。その選んだ人が何を見ているのかということとを区内と区外に分けて。

■小泉委員

足立区のイベントじゃなくたって、例えば生け花展は都心でやっていますよね。絵画展とか、そういうところ頻繁に行っていますよと。だけど足立区の、とりわけ地元ではあまり行ったことないなという人だっているわけですよね。

■事務局（地域文化課調整係長）

それはいらっしゃいますね。図書って区内・区外をあまり気にしていないですか。関係ないですね。本を読めばいいんですよね。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

最終的には「本を読みましたか、読みませんか」は、場所は関係なく。

■荻野委員

アート展とかでは生け花を飾っていますし、月1回、視覚障がい者だけで生け花をやっています。

■事務局（地域文化課調整係長）

では、全体で……

■西岡部会長

全体的なものと細かいことも、項目をうまく使えば、両方の情報を取れるのではないのでしょうか。この辺は次回また検討するというところでいいかと思えますけれども。

それ以外にご質問とかご意見ありますでしょうか。——よろしいでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

補足の説明をよろしいでしょうか。事務局、大久保です。

今、参考 1-1 の調査票と資料 7-1 のリストを見ていただいたのですけれども、枝番の 1 のほうは 16 歳以上の区民向けアンケートということで、ここが基本的には 3,000 件行うものなのですが、それとほとんど同じような体裁の資料をつけさせていただいているのが、7-2 と 1-2 というのがあるのですが、これは子ども向けのアンケートになっています。ぱっと見は同じなのですけれども、これは小中学生向けのアンケートになっています。

今回、文化分野に関する質問については、新規のご質問ということで、今まさに議論いただいた情報をどういったところで知ったかというのを子どものほうにも入れる仕組みにしております。具体的には横の表をめくっていただいて、7-2 の 3 ページのところに「児童・生徒向け調査」というものがあって、網かけが薄くて見づらいのですけれども、1 と 2 の間に帯があって「文化芸術について」となっています、2 と 3 の間に文化芸術情報の入手ツールという、先ほど大人のほうにも入れたいという項目を入れさせていただいていますので、ここの分析の仕方については今ご議論いただいたものを子どものほうにも当てはめて検討したいと思いますので。

■西岡部会長

これは前にひょっとしたら聞いていたかもしれないですけれども、どうして小 5・中 1 だったのですか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

これがちょっと複雑なのですけれども、この 3 分野の調査とは別に、衛生部でやっている「子どもの健康生活実態調査」という子どもの貧困の対策を考えようという調査があったのですね。それ

が区内の特定の学校の小学6年生と中学2年生を対象にしてやっていたのですけれども、その調査と連携をさせようということで、同じ学校で取らせていただいていたのです。衛生部の調査と、この調査。ただ、同じ学年でやると負担が大きくなってしまいます。同じ時期に2つの調査が来てしまうということで、1学年だけずらさせていただいて、それでも大体連携した分析ができるということで、ちょっと複雑な理由なのですけれども、一応そういった理由になっています。

■西岡部会長

それでは、よろしいでしょうか。

ご質問とかご意見がなければ、そろそろ時間になりましたので、第1回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会の文化芸術部会は、これで終了とさせていただきます。

本日は令和7年度最初の文化芸術部会ということで、3分野計画の評価やアンケート質問項目についての意見項目が中心になりました。本日の意見交換の内容を踏まえて、次回の部会では具体的な議論に進んでいくものと思います。本日は誠にありがとうございました。

5 今後の予定

■西岡部会長

それでは最後に、事務局から事務連絡をお願いします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

どうもありがとうございました。

事務局から3点ご連絡させていただきます。

まず1つ目としまして、次回開催でございますが、令和7年度8月7日を予定しております。確定次第、改めて開催通知等をご案内させていただきます。今、部会長からありましたとおり、本日頂いた意見を事務局で整理させていただきますして、次回の議論につなげていきたいと思います。

次に、本日の議事録についてですが、事務局にて案を作成し次第ご確認をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。全て確認終了後、区のホームページに掲載させていただきます。

お車でお越しの方がいらっしゃいましたら、駐車券をご用意しておりますので、出口付近で係員にその旨をお伝えください。

最後、大久保から1件あります。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

次回までの間に1点皆様にお願いがございまして、次回で意見をまとめて、先ほどのシートの5番のところに実際にコメントを皆様のほうで入れていただくのですが、事前にシートをお送りしますので、そこにコメントを埋めていただく作業をお願いできればと思います。そのシートをご用意でき次第、個別にお送りをさせていただきます。西岡部会長、傍嶋委員、葛西委員は以前にやっていた作業と同じ作業のイメージになりますけれども、小泉委員と田島委員には別途詳しくご説明させていただきますので、そういった作業を少しお願いできればと思います。

■田島委員

これって締切りは？

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

ちょっとタイトになりますので。

■葛西委員

これってあれですよ、記入するとき、3のここに書いてある項目に対する自分の評価を……

■西岡部会長

そうではないと思うのですけれども、3に書いてあることを参考にしつつということだと思います。

■葛西委員

現在の達成度。

■田島委員

とにかくここを全部読んで、自分の意見をですね。

■西岡部会長

これは担当部による評価なので、あくまでも推進委員会による評価は別のものなのですね。だけど、ここに対する評価を参考にしつつということで。だから今……

■葛西委員

現在の達成状況に対する評価というのは、この数値に対する評価ということか。

■西岡部会長

もちろんここ全体に対して、この推進委員会としての。

■葛西委員

今後の方向性への評価というのは、3のここに書いてある……

■西岡部会長

これについてはそうです。

■葛西委員

理解しました。すみません。ありがとうございます。

■西岡部会長

第3回の全体会のことについてはよろしいですか。まだ情報がないということで。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

失礼しました。第3回ですけれども、日程がピンポイントでのご相談になってしまいまして、9月26日の午後2時から午後4時で、会長、副会長のご予定がそろるのが9月でここぐらいしかない状況でして、こちらで進めさせていただきたいと思っております。現時点でご出席が難しそうな方がいらっしゃいましたら、お伺いできればと思うのですけれども。

■西岡部会長

全体？

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

全体です。文化芸術・読書・スポーツの皆さんにお集まりいただく会議です。次第のほうには9月中旬から下旬ということになっているのですけれども、9月26日の午後2時からということで基本的には実施させていただきたいと思っております。お願いいたします。場所が学びピア21、中央図書館のある建物になります。また正式に開催通知をお送りさせていただきますので、そちらでご確認をお願いいただければと思います。

■西岡部会長

では、事務連絡もよろしいですか。

今日はどうもありがとうございました。